

地域総合



新病棟で診療を開始したひたち医療センター＝日立市鮎川町

医療・教育の拠点に

ひたち医療センター

新病棟で診療開始

日立

県北地域の中核医療機関として発展を続ける日立市鮎川町の「ひたち医療センター」(安本和正病院長)が7日から新病棟での診療を開始した。最新の高度医療設備と医療機器を備え、内科や外科、小児科など17の診療科目を設けた施設で、救急医療と医学教育の拠点として期待が高まっている。13日からは同市

茂宮町の脳神経外科専門病院「聖麗メモリアル病院」から医師派遣を受け、これまで土曜日の午前に診察していた脳神経外科の診察を毎週水曜日にも実施する。

余儀なくされたことから復旧復興事業として建設。鉄筋コンクリート6階建てで、許可病床は273床(一般病床223床、療養病床50床)。診察室や各種検査室を1フロアに集約し、救急搬送から緊急手術、各種検査への最短動線を確認。患者

の不安解消や医療スタッフの負担軽減につなげた。昭和大学との人材交流などで医師の育成や確保に努めている同センターは、1963年に秦資宣氏が「秦外科医院」として病床数15床からスタート。翌年には1病棟40床を増築し、秦外科病院と改称した。78年に秦総合病院として200床に増床。2013年には県内初の社会医療法人に認定され「ひたち医療

センター」と改称するとともに、昭和大との連携病院となった。社会医療法人は、休日夜間の救急車受け入れ台数が3年間で年平均750台以上を維持しなくてはならず、同センターの過去3年間の総受け入れ台数は4745台、うち休日夜間救急は3130台。今年4月は129台、そのうち88台が休日夜間救急となっている。

(小室雅一)